

学生たちの環境活動ノート⑥

やお環境クラブ 活動報告会



大阪府地球温暖化防止活動推進センターは、昨年度に引き続き、今年度も若者（八尾市在住・在学の高校生・大学生）を起点にした、地域の環境課題解決に向けた取組みを支援しています。

2月2日（日）にその集大成とも言えるやお環境クラブの高校生たちによる発表会が八尾市役所にて行われました。

当日は八尾市役所の職員に加え、八尾市議も来られ、発表する高校生たちにとっては緊張した空間となりましたが、終始穏やかで楽しい雰囲気では進みました。

八尾市内の商店街と高校生がコラボし、活性化につなげる提案は、地球環境問題への即効性があるわけではないものの、高校生をはじめとする若者が地元である八尾に関心を向け、地域課題の解決を通じて環境問題の啓発へとつなげる興味深い発表でした。

次に、小中学校校舎のZEB化による学習環境の改善の提案では、省エネに直接つながる”断熱化”を、授業の中で体験的に学ぶとともに

に簡単な断熱化をすすめることができる「断熱ワークショップ」を実施する案など、当事者である学生ならではの視点で発表がされました。

最後に八尾市が抱える放置竹林問題の解決案として、竹から抽出した精油によるアロマオイルの開発を提案する発表がありました。奈良県の生駒市の事例を挙げ、竹から様々な製品ができることから、八尾市でも取り組むことによってこの問題を解決する糸口になるのではないかとという発表でした。

この3つの発表を受けて、高校生の発想の豊かさや柔軟性を感じることができました。今年度のやお環境クラブの活動は終了となりましたが、来年度に繋がる充実した1年となりました。

今後のさらなる活躍に期待しています。



2025年4月～5月 大阪府民の森 ちはや園地 イベント情報

イベント担当／ちはや星と自然のミュージアム
TEL:0721-74-0056

感動! 星空観察会

ミュージアム星見台で大型天体望遠鏡を使ったの天体観察

【期間】4月19日(土)・5月3日(土・祝)・10日(土)

【時間】19:30～21:00

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【料金】800円 【定員】30名

※金剛山キャンプ場での宿泊が必要です

【申込】ちはや星と自然のミュージアム

山麓スターウォッチング

金剛登山道駐車場で日帰りの星空観察会

【期間】4月5日(土)・26日(土)

5月5日(月・祝)

【時間】19:30～21:00

【集合】金剛登山道駐車場

【料金】700円

【定員】30名

【申込】ちはや星と自然のミュージアム

山麓でもっと星に近づく! ～SeeStar とランデブー～

今ウワサのスマート望遠鏡を体験!使い方も伝授します。

【期間】5月31日(土)

【時間】19:30～21:00

【集合】金剛登山道駐車場

【料金】1,000円 【定員】50名

【申込】ちはや星と自然のミュージアム

ガイドウォーク

ちはや園地内定例の自然観察会

【期間】毎月第1、第3日曜

【時間】AM:11:00～12:00
PM:13:00～14:00

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【料金】100円

【定員】20名

【申込】予約不要

野鳥観察会

ちはや園地は野鳥の楽園!

【期間】毎月第4日曜

【時間】10:00～14:00

【集合】ちはや星と自然のミュージアム
※昼食、双眼鏡(貸出可)をお持ちください

【料金】100円 【定員】15名

【申込】予約不要

太陽観察会

安全な方法で黒点やプロミネンスを観察します

【期間】晴れの日の土・日・祝日

【時間】11:00～14:30

途中望遠鏡調整のため休止時間あり

【集合】ちはや星と自然のミュージアム

【料金】無料

【申込】予約不要



えこっと OSAKA にご意見をお寄せください。

ご意見はこちらから <https://goo.gl/aZVbQn>

ご家庭や会社で取組んでいるエコ活動や、身近で地球温暖化防止に役立っている商品、設備、施設等ありましたら教えてください。その他、本紙の感想や取り上げてほしい特集なども、右のQRコード、または上記のアンケートフォームよりお寄せください。みなさんのご意見・ご感想お待ちしております!



えこっと OSAKA を 購読しませんか?



継続して購読されたい方は、1期(年3回発行)送付分の切手、110円3枚を添えて、郵便番号、住所、氏名、電話番号、何号分から送付をご希望かを記入のうえ、大阪府地球温暖化防止活動推進センターまで郵送にてお送りください。

●あて先 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 大阪府地球温暖化防止活動推進センター
お近くの市町村(環境担当部署)、消費生活センター、図書館、府民情報プラザなどでも配布しております。

えこっと OSAKA は、 カーボンオフセット付の環境に やさしい情報紙です

本紙は1部あたり10.2gのCO₂(ライフサイクル)を排出しますが、これを大阪府域において実施された森林吸収(間伐促進型プロジェクト)で創出されたクレジットでオフセットしています。



マスコット
キャラクター
「えこたま」



「えこっと」は地球環境を守るために、私たちの暮らしをちょこつと（少し）だけ、えーこと（良いこと：やさしい）、エコロジカルにしようと、大阪言葉を交えた意味を込めています。

編集・発行／大阪府地球温暖化防止活動推進センター
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 一般財団法人大阪府みどり公社
TEL:06-6266-1271 FAX:06-6266-8665 <http://osaka-midori.jp/>
編集協力・印刷／株式会社ウイルハーツ
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町17-1 コンバーノビル 2F
TEL:06-6378-9500 FAX:06-6378-9550 <http://www.w-hearts.jp/>



家を建てるなら考えよう! ZEHの仕組みとメリット

ZEHの支援策

ZEHの普及に向けて、国土交通省、環境省などは、建築物の新築、改修・リフォームにおいて「補助金・融資・税制優遇」のさまざまな支援を行っています。

住宅ローンの減税、金利の優遇では、従来の省エネ基準適合住宅と比較した試算では合計で約186万円※2のメリットが受けられます。国だけではなく、民間でも環境に配慮した住宅の金利優遇が進んでいます。

※2：試算条件：借入金額4,000万円、2025年4月入居、借入期間35年、元利均等返済
融資手数料、保証料、団体信用保険料の考慮なし。
最大控除額で算出しており、入居年月日や年収、世帯状況により控除される金額は変わります。

ZEHの良さを体験・体感してみませんか

大阪府では大阪府内で住宅の新築及び建替え・リフォームを検討している家族等を対象に無料でZEH住宅の宿泊体験やZEHのモデルハウスやショールームに一定時間滞在するお試し体感事業も実施されています。実際に宿泊することで、早朝や夜間の快適さを体験することができます。

さて今回は「住」をテーマにZEHについてお話ししました。最近ではさらに高効率な「ZEH+」やビルを省エネ化する「ZEB」など、様々な環境に配慮した住宅・建築物が増えてきています。一生ものの買い物である住まい。せっかくなら次世代の地球環境にやさしい住まいを検討してみたいはいかがでしょうか。

宿泊体験事業に関するお問合せ

おおさかスマートエネルギーセンター（大阪府環境農林水産部 脱炭素・エネルギー政策課 スマートエネルギーグループ内）
TEL: 06-6210-9254（直通） FAX: 06-6210-9259
電子メール：eneseisaku-01@gbox.pref.osaka.lg.jp

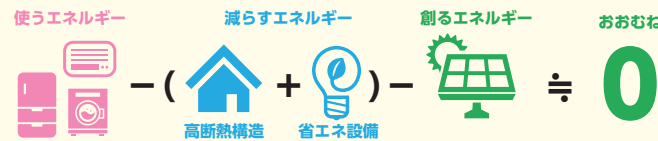
ZEHにすると
減税と金利優遇で
おトクになる金額 **186万円※2**

ZEHとは

ZEHとは、住宅の高断熱化と省エネルギー設備機器により消費エネルギーを減らしつつ、太陽光発電等によりエネルギーをつくることで、1年間で消費する住宅の一次エネルギー量の収支をゼロとすることを目指した住宅のことです。

国では、「2030年度以降新築される住宅について、ZEH基準の省エネルギー性能の確保を目指す」とし、ZEHの普及に取り組んでいます。

ZEHとは1年間で消費する住宅の一次エネルギー量の収支を ゼロとすることを目指した住宅のこと



ZEHの特長

エネルギーコストの削減：高効率な設備や断熱性能により、冷暖房や給湯などのエネルギー使用量が大幅に削減され、結果として光熱費も減少します。

快適な住環境：高断熱の構造により、室内の温度が安定し、快適な住環境が保たれます。なお、外部の騒音も軽減されるため、静かな生活が実現します。

環境負荷の低減：再生可能エネルギーを利用することで、CO₂排出量が削減され、地球温暖化対策に貢献します。

健康リスクの軽減：高断熱の構造により、部屋間の温度差が少なく、ヒートショックのリスク軽減や結露によるカビの発生を抑え、アレルギーの予防にも効果があります。

停電時の電力使用：太陽光発電設備があると、晴天日の日中は停電時でも電力が使用可能※1です。さらに、蓄電池を設置することで、停電時の夜間でも電力が使用可能です。

※1：太陽光発電システムの場合、自立運転コンセントへの切り替えが必要です。

気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）
報告会レポート

気候変動のいまとこれから

2月15日にイケマンカンファレンスホール（大阪市中央区）にて行われた、2024年11月にアゼルバイジャン・バクーにて開催されたCOP29の参加者である講師による現地報告会に参加してきました。

今回お話しいただいたのは気候ネットワークの田中十紀恵さんと中西航さん。地球温暖化の現状、COP29での交渉結果や実際に現地で体験したことをお話しいただきました。

COP29とは

2024年11月11日から11月24日（2日延長）、アゼルバイジャン・バクーにおいて、国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）、京都議定書第19回締約国会合（CMP19）、パリ協定第6回締約国会合（CMA6）、科学上及び技術上の助言に関する補助機関第61回会合（SBSTA61）及び実施に関する補助機関第61回会合（SBI61）が行われ、決定文書等が採択されました。

我が国からは、政府代表団長である浅尾慶一郎環境大臣を筆頭に、外務省、環境省、経済産業省、財務省、金融庁、総務省、文部科学省、農林水産省、林野庁、国土交通省、気象庁及び関係機関が参加しました。

地球温暖化の現状

最初に田中さんがお話しされたのは、地球温暖化の現状について。現在の温暖化は人間活動が原因であるということは疑う余地がなく（2021年IPCC発表）、2022年のパキスタンの洪水被害、その他、自然災害による難民の増加、日本でも能登半島の豪雨など、温暖化がもたらす自然災害は激甚化していく一方です。2024年が観測史上もっとも

暑い一年となったことは記憶に新しいかと思えます。

さて、この現状を打破するために「産業革命前と比べて世界の平均気温上昇を1.5℃に抑えること」で温室効果ガスの排出を減らす脱炭素社会を目指しています。

しかしながら、現在、CO₂の排出許容量は限界に近づいています。いつかではなく今すぐに行動しなくてはいけない状況になっています。

COP29 の様子

COPの最大の目的は、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）に基づいて、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させるということです。これを実現させるための締約国政府による話し合いの場をCOPと言います。

今回は主な論点として、以下の3つが上げられました。

気候変動対策に必要な資金（気候資金）について、2025年以降の気候資金目標（NCQG）の交渉は非常に難航し、会期を延長して、2035年までに少なくとも年間3,000億米ドル（民間資金含む）を目指すことが合意されました。しかし、公的資金を中心とした年間1兆米ドル規模の数値目標を求めた途上国には不満が残る内容となりました。なお、今回の資金交渉において、先進国が議論に後ろ向きな態度をとっていたことは、NGOなどから大きな批判的となりました。

緩和に関しては、COP28決定の「化石燃料からの脱却」「再生可能エネルギー3倍」「エネルギー効率倍増」に向けた取り組み強化について進展がなく、野心的な2035年の排出削減目標の提出に向けた機運も醸成されたとはいえ難い結果となりました。

パリ協定6条（炭素市場）のルールは合意に至り、今後運用されていきます。

交渉会議は資金や緩和といった議題で交渉が難航し、11月23日の夜から合意文章の採択などが行われる閉会式が始まったものの、中断と再開を繰り返し、24日の早朝に閉幕するという事態になりました。

化石賞を受賞

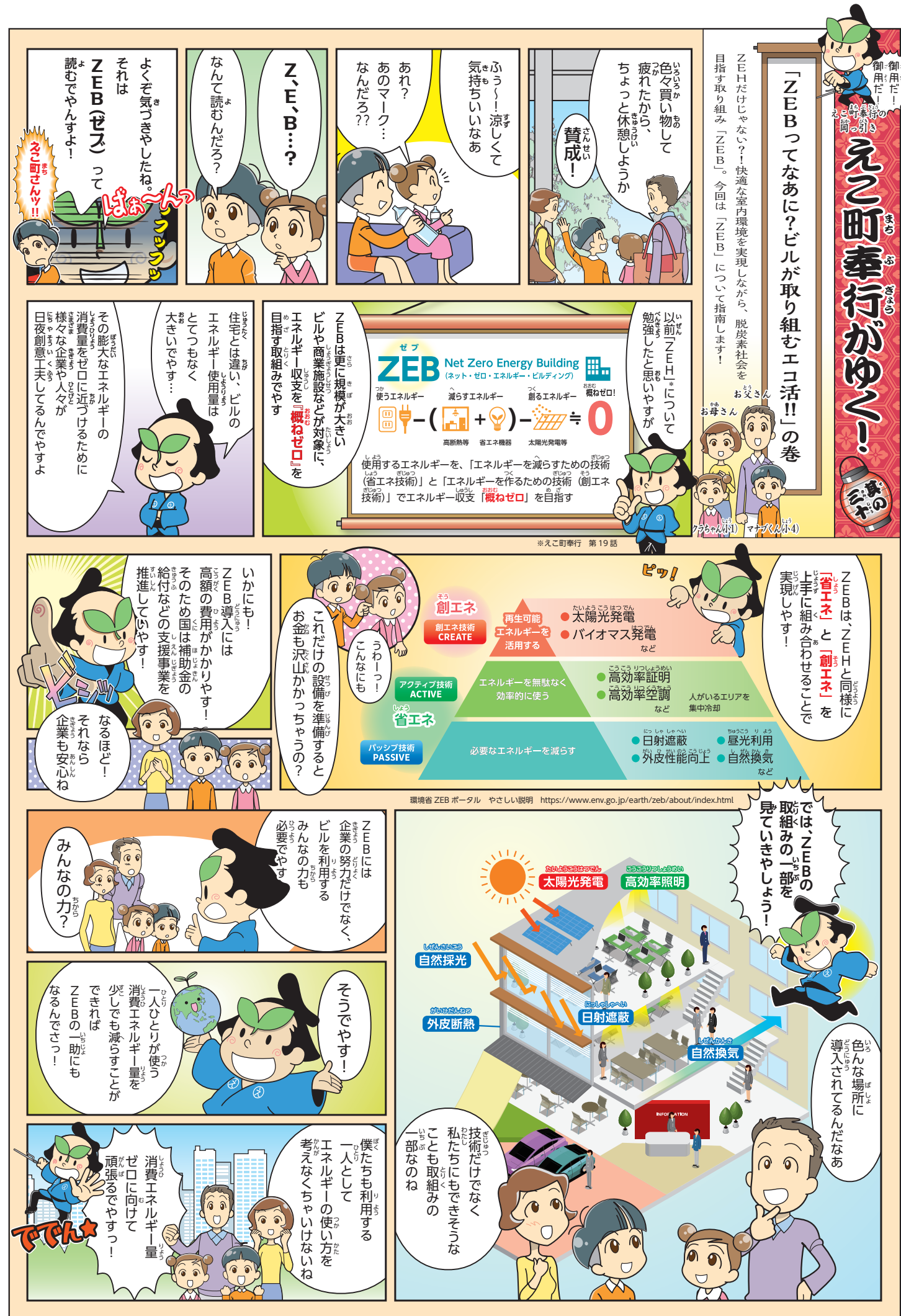
化石賞は、気候変動に取り組む130か国の1,800を超える世界最大のNGOのネットワーク、CANインターナショナルが、その日の交渉を後退させる言動を行なった国に与える不名誉な賞。毎夕に行われる授賞式には、多くの参加者が詰めかけ、国際メディアを通して世界中に発信されるCOPに欠かせないイベントです。

今回は膨れ上がる気候資金に対して、後ろ向きな姿勢を行った日本を含む先進7か国等が受賞となりました。

この不名誉な賞を受けて、日本が今後どのような対策をするのか注目されています。

今回の報告会では現地での様子をお話しいただきました。参加者である大阪府地球温暖化防止活動推進員からの質疑応答も様々で、個人レベルで取り組みを行ったとして本当にCO₂は減るのか？という質問に対しては、現状、排出量は増えているとしつつも、再エネが以前よりもコストが安くなっていることで導入している企業も多く、個人と事業者が共に取り組みを加速させることが重要と話されました。

これからもまず関心を持って注目し、社会全体で脱炭素を目指していかなければならないと感じた会でした。



■ 会場の様子

写真を交え、会議の様子を事細かにお話しいただきました。推進員の皆さんからも質問が多く寄せられ、様々な意見が交わされました。

